林美香子の

文化なココロ

5►► マルシェはオシャレ

最近、道内でも話題を集める農産物直売所やマルシェ（フランス語で市場）。この夏訪れたフランスのマルシェは、品ぞろえの豊かさやにぎわい、買い物の楽しさも、さすが本場の素晴らしさだった。

フランス人の毎日の暮らしに欠かせないマルシェ。パリの凱旋門（がいせん）近くやリヨンの中心部など、都会では毎朝のようにマルシェが立つ。

また、ボフォールなど農村地帯では、週に1度のマルシェが多い。地元のチーズをはじめ、有機野菜、パン、肉、魚、花などがズラリ。中でも、多くの客を集めていたのが、車に備えたオーブンでチキンを焼きながら売っている店。50羽近いチキンを丸ごとぐるぐる回して焼いているのだから、その香ばしいにおいといったら…うーん、おいしい。

各店は近くの町や村を回って商売しているという。こんなにバラエティー豊かな移動マルシェがあれば、過疎化で店が減り買い物に苦労する「買い物難民」の心配もない。

商品の並べ方や看板のデザインもステキだ。皿に敷いた白い紙の上に並べたトマトやインゲンの色鮮やかなこと。地味な色合いの魚介類も、トマトやレモンなどをあしらうことでおいしさを演出。また、陳列台やカゴに使っている木や籐（とう）などの自然素材が、マルシェ全体の雰囲気をオシャレなものにしている。

芸術の国として有名なフランス。国民の美意識も相当に高いのだろう。マルシェ文化の先進地から学ぶことはまだまだたくさんあると感じた。

（キャスター、慶応大大学院教授）